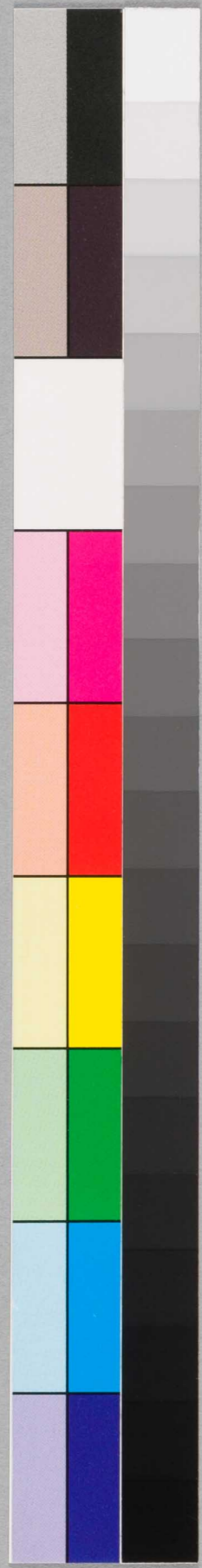




林
用
之
書

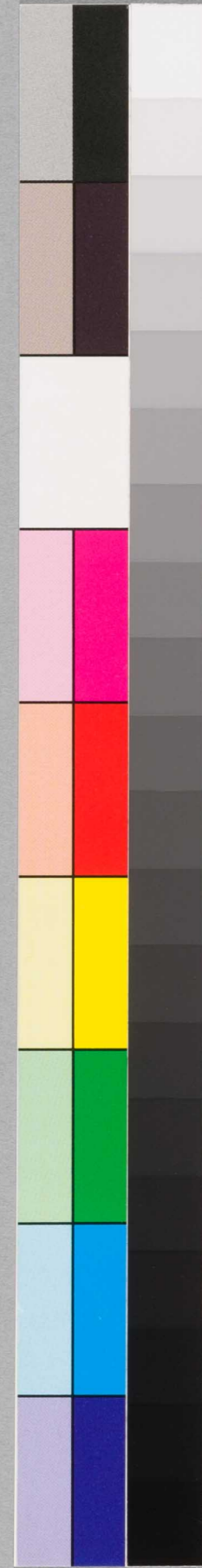


桂川醫話

森立之述
安政七年三月
林用之書



桂川醫話 完



桂川醫話

余相伊ニ客居スルヤ己ニ十歳見聞發明スルヤ

後少カラス今夕大半忘却ス唯其語記ス

ルノミヲ筆録シ後日ノ話柄ニ備ヘ且兎約之ニ

示スノミ知化丙午ノ閏五月九日相州津久井縣

勝瀬邨ノ聴濤舎東軒ニ書ス右栞立之

吉益周助ハ四十四歳ニテ京都ニ裏店ヲ借り木偶人ヲ造テ

生業トス或時問屋ヘ例ノ如ク偶人ヲ携フニ鋪上ノ忙

何事ニヤト尋シニ當家ノ老母傷寒ヲ患ヘ昨今病頗

篤シト答フ周助ノ云フニ拙者モ元來醫者ノ子ナレド微運

ユニ箇ク職エトハ成リ果テシナリ、老母大病殊ニ傷寒ト
アレバ何トゾ一診致シタシト通ジケレハ、主人ノ云ニ平生ヨリ
庶直志周助ニ診脈ノミハ苦シカルミシトテ、ソレヨリ周助ヲ
病床へ伴フ、サテ周助トクト診察ノ上、何人ノ執ヒニヤト問フ、
主人答テ禁裏附御醫師山脇道作サナリト云フ、周助云
然ル上、極メテ誤治モアルニシ、乍去御藥アラハ拜見イタス
ベシトテ山脇ノ藥ヲ見テ、サテ主人ニ向ヒ一方チラガレ大病ナレドモ
治療法ヲ得タレバ、最早追ニ快復ニ趣クベシ、但此藥今日
ヨリハ石膏ヲ去リ用テ然ルニシ、若山脇氏來診アラバ周助
カク語リキト通ジラレトテ歸リケリ、元ヨリ主人モサレテ信用

モセザリシカ、程ナク山脇例ノゴク來、診終リ藥籠ヲ出シ調劑ニ
カリシガ、ヒヲ執テヨリヤ、暫ク思案ノ俸ナリケレバ、主人進出テ
云フ、コレハ唯笑柄ニ備フルニデノ話ナリ、余カ家元來出入ノ
木偶エニ周助トイルアリテ、箇ミト前條ノ次第ヲ逐一ニ
語りシカバ、山脇横手ヲウチ、サテコソ其事ナリ、余モ今一
日石膏ヲ用ヒシヤ、吾ノ處ニテ痛ク工夫ヲ費セシナリ、其語ヲ
聞カス、其意ニ随ヒ今日ヨリ石膏ヲ去ベシト、調劑了
リテ周助ガ僑居へ加馬ヲ枉ラシ、暫ク物語アリテ尚ミ夕
周助ニ彼病人ノ日診ヲ請ヒ、此時周助ハ老母ト唯
兩人一爐一鍋ノ備ノミニテ、満屋造偶ノ木屑箒堆

ヲナセリ、但一部ノ傷寒論ハ坐右ニ披キアリナリ、サテ此
病人全快ニ及ヒシカハ、厚謝ヲ以テ山脇ニ贈ル、山脇辞シテ
受ケズ、且云ク、當時モシ周助ノ言無クシバ、誤治セシモ知
ベカラズ、カレバコレハ金ク彼レガ功ナレバ、此鮮莫ハ余収メン
銀子ハ彼ニ謝セラルベシ、乍去彼レモ一高家士レバナカ、容
易ニ受ニジ、コレハ篤ト周助ノ存念ヲ聞科シ、醫ニ志
アルヤ、工高ニ望ムルヤ、夫レ次第ニテ力ヲ添ラレシトア
リケレバ、木偶舗主ハ周助ヲ招キ、右ノ通り云セシニ、周
助ハ余元来工高ニ意ナシ、只老母養育ノ為ニ此知
ト各シカハ、舗主忽チ資ヲ出メ、家ヲ作り、醫門ヲ開ク

名ニシテアノ禁裡附ノ山脇ノ門生トイヒ、コトニ古益ハ自家
傑ナリト同人ノ推挙ニ、其名一時ニ洛陽ニ満テ、今ニ
至テソノ流沁諸國ニ蔓延セルモ、實ハ山脇ノ擢出ヨリ
起ル、東洋ノ寛裕、東洞ノ高邁、當時以テ一大話
柄ナリト、浦賀ノ大田敬齋、語リキ、

原南陽落魄シテ江戸ニ来リ、窮乏ノ餘小石川ノ春日町ニ
裏店ヲ借り、按摩鍼治ヲ以テ生業トス、性酒ヲ嗜ムヨリ日ニ
例ノ酒家ヲ問フ、献酬ノ交ヨリ、イウシカ、水戸侯ノ奴隸小
吏トハ知己ナリ、コレヨリ水藩へ出入シ、往ニ大臣へモ招カル、元
来南陽ハ和漢ノ書ニ涉獵シタル人ナレバ、何ヲ語テモ面白キ

ス處ニ療治場モ殖ヘテ日ニ酔ヲ吞スホドノ料トハナレリサテ
適^タ大守中暑暴病ニテ官醫市醫スベテ當時雷名ノ醫者
至ラザレバサレド一向ニ吐瀉トモナク不省人事ニテ已ニ危篤
ニ及ヒ今ハ術盡タリケルヨレバ用人某衆醫ニ向テ云フ各
位イキ術尽名ニヤ然ラバコニ一醫アリ按摩ヲ渡世ニ
シテ居ル上方者ニテ元ト三世ノ段酒ナレドモ放蕩ニテ今零
落セルヲ此者平生ノ話ヲ聞クニ頗ル見所アレバ何トゾ
診イタサセタト云フニカク上ハトモカクモト各評議一決メ
直ニ南陽方へ使者ヲ以テ言ヒ遣ル折節南陽ハ午睡
テ居タリケルガ使者ニアラシシノ容體ヲ問テ忽ニ支度シ行

ガケニ藥店ニテ肥巴豆三粒杏仁三粒ヲ錢九文ニテ買ヒコ
ヲ懷ニシテ屋鋪ニ至リ先ツ用人ノ宅ニテ服ヲ改メソレヨ
リ御前へ出一診了リサテ云ハ乾霍乱ノ御澄ナレド
實滿ノ一ス受合テ御全快アルベシ併ナカラ今用ル此藥
方名ノ義ハミラシガタシ御快復ノ上ニテハ御話シマフスベシト
テ懷中ヨリ巴豆杏仁ヲ取出シ茶碗ノ内ニテスリワブレ焚
湯ニカキセゼ口ヲ校テコレヲ下ス此藥汁悉ク下ルヲ見テサ
テコレヨリ半時許モ過テ後吐瀉アルベシサレバ快復ナリ
先ソレシテハ箇様ナ窮屈ナ所ニハ難義ナリ御堂所
隅カトテ酒ヲ一升熱服メ待タキヨシテ御前ヲ下レサテ大

守ニハコヨリ半時許ヲ過テ、苦痛甚シク吐瀉數回ニ及ヒ、
忽チ夢ノ覺タルカ如ク精神了然タリ、人ニ大ニ驚歎
シ、イソギ南陽ヲ召スニ、南陽ハ例ノ大醉ノ上ノ午睡ニバ
夕ハヒナシ、漸ニ起立テ、熟診ノ上、寢早巾金快ナリ、サテ
只今差上ケタル御薬ハ別ノ珍ラシキモノニテモ無シ、コレハ各
方モ巾凍内ノ金一莖ニル走馬湯ナリ、シカ用ヒ覺テ、御
方ハ有ルニジトテ冷英ス、滿堂各歎賞、浅カラズサテ此上ハ
御薬ヲ處セラレトヨトルニ、南陽色ヲ変ヘテサテ、各方ハ意
得ヌイヲ仰ラレ、モノカナ、病愈ノ上、藥ハ無用ナリ、唯糜
粥調理ニシクハナシトテ、藥ヲ用ヒズ、衆醫皆コノ見識ニヲ

ソレ重子テ云フモノモナカリシトシ、コレヨリ水府ハ召出サレ、新地
五百石ヲ賜ハリ、四方ニ高名ヲ車轉シケリ、九文ノ本錢ニテ五
百石ニナリシ事、當時ノ美談トナセシトシ、甲斐ノ河内俣庵
ノ話ナリ、

三

初代河村意作ハ元ト福山ノ市醫ナリシガ、
興徳院 正倫 君御入部ノ節、御供ノ御用人某御着城ノ日
卒倒メ人事不省ナリ、諸醫皆己ニ絶脈ヲラシ上レ、意作
熟診ノコレハ見所ナリ、甦スベシトテ、シタ、カニ炭ヲオコサセ、
折節寒天ナリケレバ、先十分ニ我手足ヲアタ、メ、病人ノ用ニハアラズソレ
ヨリ病人ノ手足ヲ四人ニテ押ヘサセ、サテ腹部ニ針ス、其法金

針ヲ以テ槌ヲ打コムシ、第一針シテ應ゼス、二針ニメサシク手
足ヲ動ス、三針ニシテ全ク甦ス、コレヨリ高名ヲ得、遂ニ福
山ノ醫官ニ召サル、其槌法ハ腹診ニテ病所ヲ觀察シ、左
手ノ食指ト中指トノ間ニ針ヲ緊シク挿シ、針ハ指頭ヨリ
三分許モ引下ケテオキ、サテシヨリト指ヲ押付ルトキハ、針頭肌
上トヒトシクモナリ、コノ時上頭ヨリ、右手ニ槌ヲモチ、トシトシ
トワチコム、板屋葺ノ釘ノ心持ナリ、又トシトシトシト打ツ事モ
アルヨシナリ、何レモ打ツ前ニハ左手ノ背ニテ一ヲトシトタメシテ見テ
サテ打込ナリ、此際口傳
アルヨシナリ針瘡如此、初
モ或如此、此金針
大坂ニテ□□流ノ針トテ今モ嚙クヨシ、福山同僚糸井東

庵ノ話ナリ、此針法我家傳來ノ松岡意斎流ノ針ト同
法ナリ、蓋意作モ亦意斎ノ末流歟、

四

狩谷板齋翁ノ話ニ龍ヲタフト訓名ハ不審ナリ、コレ和産ナ
キモノナレハ和名モアルニシキナリ、因テ攷ルニ和名ニタフトイハル雅
ニ云騰蛇ニテ蛇中ノ一種登天スモノヲ云フシ、今此邦ニモ蛇
ノ上天スル一諸處ニ目撃スル所ニテ、タフトニキタツル杯イハレ即
和名ニイフタツノ一ニサテ西志ニテイフ所ノ龍ハ未詳、平日
アルニジキモノナリ、去ナガラ龍ハ形モ定マラズ大小自在トモ
アルハ右ノタフトニキノ節昇ル所ノ蛇モ亦コレ一種ノ龍ナリト
イフモ可ナラカ、タフトハ即タキノボルノ義ナリ、或人縁日ニ竹

一藪買來テ庭上ニ植常ニコレヲ看ル此竹一竿枝葉
トモニ毎ニ濕テホタト露ノシタルアリサ、イカニ怪シク思
ヒシヨリ、半ヨリ截断セシ中ヨリ泥鱗ノ如キモノ一ツ出忽ニ
急風暴雨起リソレニ混ノ遂ニ天上シタリ、蓋コレハ蟄龍
ナラン

立之案スルニ吉管塹近聞偶筆ニ朝士奈佐正勝曾祖
某曩住下谷夏月遊傍近一練若与主僧對碁僧
為盛瓜磁碗供客時正炎天條天陰風雨驟至雷
聲輒起磁碗忽然迸裂見有一小白虫自裂衣
處出走向外比至戸際大如蜥蜴上庭中屏牆轟

立長既數尺雲霧疊降飛而升火光閃爍時
時見形大如巨田笑蓋蟄龍也

古今著聞集第九御堂關白殿ニテ解脱寺觀修
陰陽師晴明醫師忠明武士ニ義家參リテ
早瓜ニ毒アリト晴明ウラナヒ觀修加持シ瓜動ク
忠明針ヲタテタルニ瓜ノ中ノ蛇左右ノ目ニ針タテ義家
切ミタルニ地ノ頼ヲ切りタリトアリ瓜中有龍ノ話
古今ニ事合致ベシユニ併テコレニ奉ク

鼈甲ノ骨髓中ノ熱ヲ清スルハコノ物本ト泥水中ニ潜行
スルモノユヘ自然深入ノ功アリト山田玄瑞ノ説ニテ新

五

忠明ハ康頼
ノ孫ナリ系
圖ニ出ツ

奇ナル氏頌理アリト、蘭軒先生ノ話ナリキ、

三之案スルニ九草根木皮ノ鬆松虚空中丸者ハ皆利水
通竅之功アリ、脂液アリテ干燥セザルモノハ多クハ生津
補血能アリ、輕虚ノ者氣ニ走リ、重實ノ者血ニ走
ル、鬆松虚ハ麻黄通草ノ類、空中ハ波疏桐梓ノ類、脂液
滋润ハ地黄牛膝ノ類、輕虚ハ黄耆麻黄ノ類、重實ハ
當歸芍藥ノ類コレリ、即神農家ノ常華ニシテ、
コレヲ擴充スルトキハ鱧魚鮓魚ノ類スベテ泥中ニ居ルモ
ノ皆血中ノ瘀熱ヲ去ルノ功アリ、水蛭水蛭トモニ血ヲ
破ルト同理、此等學者ノ專攷究スベキ所ナリ、

六

娼婦ノ處女ヨリ出テ始テ男ニ交ルモノ、二三月ニシテ多クハ小腹
疔痛引陰内ノ患アリ、コレ敗淫子宮ニ入テオス所ナリ、俗コレ
ヲ陰腹インボウ蟲ムシト云フ、コレノ澄ハ海薤ヲ煎メ服セシム甚效アリト、
大磯驛ノ住吉屋孫兵衛語シリ、尔後此澄ニ遇ゴトニ酌
源堂家方ノ海薤湯紫草山柁海薤伏苓烏賊骨各五錢
甘草三錢右六味水煎服治婦人淋病ヲ
用ヒ且海薤ヲ稠煎シテ葛餅ノ如クシテ沙糖ハクルミ全吞セ
シ、甚効アリ、意ヲ注キ見ルニ娼婦ナラヌモ亦往々此澄ア
リ、此澄ハ海薤ホトケヲ用ヒタル方アリ、未試、蓋シ海薤ト同理ナルベシ、

七

婦人陰中痒痛或ハ白帶下或ハ子宮下垂ニ交接ノ時痛
ヲ為スモノハ蛇牀子末ヲ熟艾ニ和シ、絹袋子ノ中ニ入シ、形

蕃椒實ノ状ノ如クシ、陰中ニサシ入ル、尖頭子宮ニ挿入スルヲヨシトス、此法余カ屢試屢驗スル所ナリ、

八 破傷風ニ無患子末トナシ、黄連解毒湯ニテ下ス、頻ニコレヲ用ユ、或ハ藥湯中ヘ加用ユ亦可ナリ、己俗間所傳ノ方ナレト屢奇効アルヲ見ルト、蘭軒先生ノ話ナリ、

九 胡椒ヲ食テ墮胎セシ婦見在二人ヲ目撃ス、破氣ノ極レルモノ故ナラン、貝原損軒ハ産婦ニ薯蕷ヲ忌ムコトヲイハリ、余ハ未知ト、亦同人ノ物語ナリ、

十 湯氣ニアガリタルト云フ、三因方ニ曰ク、入浴暈倒、口眼喎斜、手足躄曳、皆濕温類也、苓朮湯主之、方、五苓散去猪苓加乾薑附子、トコレテ明白ナリ、又、岡本云、治蘇子降氣湯ヲ用テ治シタルコトアリ、亦虚陽上攻ノ意ニトルシ、

十一 打撲折傷ニ、葱青白ヲ擇バズ、数十茎ヲ取り、煮テ其汁ヲ飲ム、其渣ヲ以テ熱ニ乗メ、患所ヲ熨ス、此方甚良、餘治ヲ施サズメ、愈エ、實ニ救急ノ良法ナリ、以上二條ハ家方寫本ノウチニアリ

十二 水氣ニ赤小豆ヲ用ル、煎湯ニテハ效ヲ見ズ、但末トナシ、半炒半生ニテ、湯劑ニ攪用ス、效十倍スト、大山雲格ノ口傳、

十三 癰毒咽喉腐爛シ、藥ヲ服スルコト能ハサルモノ、先釀醋ニ蜜ヲ和シ、漱セシム、後五寶丹ヲ蜜ニ和シ、箔ニ裹メ、嚙化シ、漸ニ津液ニテ吞下ス、此法最妙ナリト、杉田玄白傳ノ言、

十四

相州雨降山ニ連ル林林蕨ニ五六月ノ間大箇ヲ生ス蓋ノ徑リ尺餘ニ至ル茎コレニ準ス箇中コレヨリ大ナルモノヲ見ズ未夕全ク蓋ヲ開ガレモノ食スルニ佳ナリ食法沸キ熟シ上皮ヲ剥取り内肉ノミヲ切り片ニシ煎食フ淡泊ニシテ味アリ其色潔白但上皮ニ油滑ノ氣アリテコレヲ吞ラズバ食スバカラス土人コレヲヅカウ又ヅカウボウト呼フ何ノ義志ヤ知ラス蓋レ頭高^{カク}ノ義ニテモアラシカ

十五

相陽諸山松枝伐断ノ後二三年ノ間ソノ伐リ口ニ生スル菌アリコノ物香氣甚シクヤ早^サ松茸ニ類セリ大ナルモノハ蓋ノ徑リ尺許ニ及フモノアリ淡黄或ハ茶褐色ヲ帶フ味大ニ佳ナリ土俗甚珍重ス名ケテニワウジト云フ余カ詩中戲ニ松黄耳ヲ用ユ

十六

又同所ニモミソ又モミソダケト云フモノアリコレ槌林中ニ出ル菌ナリ土俗モミソ木ヲ^{モミソト云フ}形状ハダケニ似テ茶褐色ナリ味亦ハツタケニ類セリ^{江戸ニテハツタケノ中ニ混ジテコレヲ賣ル呼テアカハフトナス}

十七

又日向山中ニサコ多ク出フ必シモ竹林ニ出ルナラズ杉林中落葉堆裏ニ生ス年々一處ニ叢生ス梅雨晴後二三日ノ間採盡サレヌホト出フ靈山寺^{藥師中ニテハ鹽藏シテ}年中ノ珍膳ニ供ス色白少シク淡紅ヲ帶フ形状ニ似テ似テ柔軟茎細長ニシテ蓋扁大ナリ味甘淡ニシテ齒

ギレヨシ、菌中ノ珍味ナリ、

六
又子ヅミタケ、初生鼠ノ手ニ似テ、数千叢生シテ一塊根ヲ成ス、黄色又褐色ヲ帯フ、又セシボンシメジニ似テ、小數根簇生ス、色淡白、コノ二種味カシリ、

丸
木生ノ鉤吻ヲ相州日向ニテハ子ヅコロシト云フ、古人云コノ実ヲ誤食スルトキハ一夜ヲ過サシテ死ス、スニテ毒ヲ殺シト名クト、同所ニテ先年兩兒一時ニ此實ヲ玩弄メ食ス、一兒ハ吐瀉シテ病メドモ死セズ、一兒ハ吐瀉ナク即死ス、ソレヨリ此木ハ我子ノ敵ナリトテ、其父見ルニ隨テ根ヲ掘絶ス、ユニ今ハ餘村ニハ多クアレド、日向一村ニ絶テ見エズ、此物津久井ニテハ

ウレコロシ又ナバワリト云フ、

世

コクサギ 先輩常山ニ云ルモノナリ、ヲ津久井縣ニテコクサツバノキト云フ、養蚕

中爐ニテコレヲ時ニ焚ク、コノ臭氣蚕ノ好ム所ナルヨシ、コクサツバハコクサギノ特歟

又此葉ヲ採テ田菌トナス、コノ脂液モシ身肌ニ觸ルトキハ瘡ヲ

ナスコト、椿ヨリ甚シ、其状癩ノ如ク、腫起ノ所透明ナル

コト硝子ノ如シ、疼痛尤甚シ、古人云フ、朝露未夕晞ガレ

ノ前ニ採リ、夫ヨリ日向（出ルカ）又ハ湯ニ入レルトキ、必瘡ヲ

成ス、早く其脂液ヲ水ニテ洗ヒ去ルトキ、其患モト、

カジカノ大志モノ、背ニ黒斑アリ、コレヲ津久井ノ方言ボラ

ト云フ、小志モノヲカジラ、又カジワカハト云フ、和名鈔ニ崔禹錫

世

食經ヲ引テ云、鮠、音夷和名、性伏沈在石間者也トイヒ、本草細目杜父魚ト云フ是ナリ、京都ニテイシモ千、嵯峨ニテ
タル伏見ニテカハヲコセ近江ニテムコ又ドウマン築紫ニテ
トボ小田原邊ニテカハフダ又アエカゴト呼ス皆同物ナリ、俳
諧ノ書ニ杜父魚ヲカクフツト訓セリ、此物種類甚多シ
ギ、スナホリダホバゼゴリナド皆一類ニテ異種ナリ、此物
鮠子ヲ石間ニスリツケテオクナリ、冬月溪間ノ石ヲ起シ
見ルトキハ粟粒ノ如黄白色數萬一塊ヲナシテ石上ニアリコレヲ
取テ塩醋ニ和シ或烹食ス味極テ美ナリ、聞ク川魚アリ
サケノ類比如此石間ニ鮠ヲスルモノナリ、若溪水大漲ノ

後ハ浅深處ヲ易ク故ニ其鮠皆干枯シテ去和ス若再ヒ
水至ル時ハ夕トハ數十年ヲ経ルトモ其鮠皆必活生スト

三

面疔ノ奇藥、カニナトヤニリヲ擣碎キ合和シ紙花攤ノ
瘡上ニ貼ス膿汁出テ乃愈ユコレ一醫生ノ祕傳ナリヲ懇
求シテコレヲ得タリトテ勝瀬ノ岡部政右衛門傳エラル
此方真ノ疔ニハ未タ效ヲ見ズ類疔ニハ毎々効アリ奇ト
イフベシ

三

大磯ノ鱗屋某少年兩臂ニ文身シ後コレヲ悔テ滅却
セント余ニ高ル余種々ノ傳貼ヲ用ヒ脱セズ最後ニソツヒル
膏ヲ貼スルニ大惱痛半日許ニシテ膚肉一片全然爛脱

苗

セリ、尔後生肌膏ヲ貼ス、不日ニ愈エ、
相州海濱鶴膝風ヲ患ルモノ甚多シ、土俗ヒザヤラウト呼
卒暴膝痛、焮腫ヲ去、甚シキハ全身大熱、兩足共ニ病モ
アリ、此證初發ニ牽牛子生炒燒三種ノ末ヲ等分
酒服セシムルトキハ、大下ヲ得テ熱退キ腫散ス、日ノ一兩日モ後
レタルハ下劑ニテモ散ゼス、此時ハ鉞針ヲ以テ腫所ニ針ス、針所針
モシ針スルニ遲キトキハ、廢人トテ成膿ノ後ニ針スレハ多クハ
足痿ス、針ノ血又ハ清水出ルトキハ必愈ルナリ、凡膝ニカギ
ラズ手足陽部ノ不時ニ腫痛スルモノヲ、土俗カザバト云フ、
亦有散藥酒服シテ多クハ治スナリ、

莖

大磯ノ西鄙生澤村音右衛門ノ娘、梅澤ニ嫁、此地ハ漁
邨ニテ、举家脯魚ヲ列衣クヲ以テ業トス、俗ニイフ右ノアヤリ
タルニヤアリケ、男兒ヲ産ム生レカランニ、兔缺ナリ、五月生レタル
ヲ六月治テ余ニ請フ、余炎蒸治テ誤ラテ怖レテ日ヲ延テ
七月末ニ至リ方サニ治テ施ス、此兒上唇左鼻竅中ハ切レコミ
齒銀モ六断却セリ、且上唇ト銀トノ際皮肉附着シテ
指ヲ入ル地也、因テ先鉞針ヲ以テ銀脣間ノ肉皮ヲ切り
割リ、洗淨メバルサマヲ綿絮ニ和メ挿ミオキ、四五日経テ
腫モヒキ上唇肉左右ハ自在ニ動カスヲ得テ、仍テ剪刀ヲ以テ
裂隙ノ兩肉ヲ剪却シ、針縫法ノ如クス、直ニ乳ヲ与ニ能ク

吮フ、四日月ニ至テ肉全ク附着ス、ヨフテ綿ヲ又キテ、僅ニ二針
ニシテ能合ス、コレニ因テ攷ルニ嬰孺無慮ニ治シ易キナリ、大
人ニ至リテハ曼陀羅花ヲ服セシメテ後治メ施スベシ、

共

鼠坂竹藏ノ孫男、生下未タ其年ナラズ、初メ疥瘡ヲ母ヨリ
染ス、疥愈ルノ後、兩頭角ニ瘡ヲ生ズ、醫起膿膏ヲ貼シ
且巴豆丸ヲ用テ膿出ルノ後漸々高腫瘦シ、瘡處乾燥シテ
蓋骨ヲ見スニ至ル、余ヲ引テ診セシム、余曰ク、虚標不治シ、
藥ヲ乞フニラズ、後三日ヲ経テ死ス、凡ソ小兒ノ瘡ハ潰膿ヲ
必トスル固ヨリナレド、中氣如何ト慮ルベシ、漫ニ解毒ヲ行フトキハ
氣血兩虚ノ大變オユル、氣血ノ有餘ヲ見テ後解毒スベシ、此

意得ナキ時ハ往ニ治ヲ誤ルコトアリ、

共

奈良本儀助ノ妻、年三十餘、寒熱往來腹痛甚シ、醫
傷寒又ハ血熱トシテ治スレドモ更ニ效ナク、七月末ヨリ荏苒
ト十月ニ至ル、余ヲ引テ治ラ乞フ、其澄飲食シ畢テ即
吐ス、藥汁モ亦吐ス、小腹塊アリテ突起ス、六月以上ノ妊似
タリ、經水毎々或來或不來シテ不調ナリ、此ニ三月更ニ
不來、唇舌常ノ如シ、余曰ク、血塊ナリト、遂ニ桃核承氣
ヲ用ル、凡ソ十貼許ニシテ、前陰ヨリ血塊ヲ下ス、大サ手
毬ノ如キモノ三枚、續イテ吐モ止ミ、食モ進ミ、漸々快復ス、
與瀨横道ノ孫左衛門ノ妻、年四十餘、不食十餘日、大熱

共

范

大渴冷水ニミテ喫ス、但舌ニ胎ナク、精神言語常ニ異ルト無シ、
前醫傷寒トシテ治スニ柴胡白虎ノ類ヲ以テスト雖更ニ
寸效ナシ、余亦前症ト日シキニヨリ桃核承氣ヲ用シテ五貼、
其夜敗血三四塊ヲ前陰ヨリ下シ、諸証平ラカニ、尔後
陸續惡露ヲ下ス、一半月許ニテ全愈ス、古方ノ妙意
表ニ出ル、ハ運用應機自得ノ上ニアルコトナリ、
篠原善右衛門ノ男兒十一歳、傷寒不大便十日許、飲食不
下、困眠不語、舌胎淡白、微渴アリ、綿懨死ニ瀕ス、前醫參
附ノ類ヲ用ルニ寸効ナク、手ヲ束子テ治ヲ余ニ乞フ、余脈ヲ
診スルニ沈數ニカアリ、心下ヨリ臍腹左傍ハカケテ堅實甚

世

シ、余ク少陽ニ明ノ証ニテ、失下經日此ノ如シ、腹候ト不食困眠ト
モニ、虵ノ所為ナラト思ヒ、大柴胡湯ニ鷓鴣菜ヲ加ヘ三貼ヲ
与フ、午前ヨリ用ヒ未時大便一通、戌刻ニテニ大便凡三行、
虵ニ條ヲ下ス、曉天稀粥ヲ喫ス、尔後大小柴胡雜ヘ用
ヒ、始終鷓鴣菜ハ引カズメ全功ヲ得タリ、
八丈嶋ノ婦人、一タビ妊スルトキ、臍上ニ布帯ヲ緊束シ、兒ヲシテ
肥大ナラシメ、食物常ノ如ク、魚鰕少シモ禁ナク、勞體平日倍
ス、分娩ノ後ハ凡膏油ノ類ヲ禁シ、起居亦平穩ナラシム、全
嶋難生ノ患アルヲ聞カズト、八丈嶋ノ八丈丸御船預山下
平治平ノ活ナリ、

中風骨蒸、微毒癩瘡、四病古今以テ難治トス。六稿ニ思フニ
 一、四証皆父母先天ノ遺毒ニ因ルモノシ、其徴ハ父子相傳テ
 病ニ必血脈ヲ逐テ致病ス。其ウケ風蒸ノ二証ハ内證ニシテ
 氣虚ヨリ来ルナリ、氣虚シ血滯ルトキハ鬱熱痰ヲ釀シテ
 癩ヲ生ス。氣虚シ血乾クトキハ鬱熱肌骨ヲ薰灼メ蒸ヲ成ス。
 二病共ニ藏病ニ内證ナリ、故ニ精神言語或ハ錯乱スル
 モナリ、死証ニモスミヤカナリ。一種諸病後ヨリ癆ヲ成スモノ
 蒸ニ似テ非ナリ、痰飲痲証ヨリ楸枯不語ヲ成スモノ、癩ニ似テ
 非ナリ、コレハ類證ニテ治シ愈ムベシ。梅癩ノ二証ハ外證ニメ
 血實ヨリ来ル、蓋血實シ氣滯ルニハ瘡癩諸瘡ヲ生ス、

共ニ府病ニ外證ナリ、故ニ精神言語錯乱スルモノ少シ。
 病トイトモ急ニ死セズ、一種人ヨリ感觸セシ梅毒ト食毒
 ヲリ来ル癩ハ治シ得ベシ、又真ノ遺毒タリトモ内虚ノ極ニ
 至ラズ、治療法ヲ得、禁忌自養セバ、梅癩ノ二証ハ治シ愈
 ベシ、コレ余カ發明スル所ナド、理ノ必然ナド、臨證ノ際著
 眼觀察メ、其説ノ誣ザルヲ知ルベシ。
 相州大山寺十二坊中、大學坊ハ師弟相續テ院主トシ、然レニ
 三世皆癆ヲ病テ死ス、最後ノ院主平間ノ五雲ノ孫ナリハ余往診ス、所
 謂骨蒸熱ヲ、面色紅白、桃花蛀ノ証ナリ、不日ニ歿セリ、聞ク
 此院内小童奴隸ニ至ルテ皆同證ニテ死セル者數十人ニ及

ト頃日高野山ヨリ活僧来リ住ス山主ト公事ニ及フホトノ
偉物トバ絶テ此病澄止ム唯厨人某實ハ江戸馬喰町繪双紙
商人森屋治兵衛落島
リ使シテ来フ小童某大山御師鈴野
善大夫ノ弟二人忽死セリ小童ハ癆厨人ハ
癩ナリシコシ余ガ目撃スル所ナリ奇トイフベシ

世三
凡指痛代指癩疽ヲ成サ下欲スモノ膠モチ黏ヲ塗リオク
熱サノ痛走ニ随テ乾キ落ルナリコシ屢試屢驗ノ奇方
ニ一醫家ノ秘スル所ナラ百計メコレヲ得其方末藥ヲ黏
ニ和メ付ク末藥ハヤメノ川魚ノ焼末トシ但カキ疔ハ末ナク
トモ效アリサリナガラ膠黏一味ニテハ人コレヲ信セス故ニ近日ハ
黄柏楊梅皮ノ末ヲ和メ用ユ其効神ノ如シ

世四
治術ヲ究ルニ本草ヲ明ラメサル猶文字ヲ書スルニ小學ヲ
知ラザル如シ譬ハ藥性ノ寒熱温涼ヲ辨ゼスノ方ヲ處スルハ
篆文六書ヲ知ラズメ字ヲ書スルガ如シ字體茂美トイハ氏
的據ナキニ遂ニ誤訛ヲ免カズ藥品ノ和漢物異ニ野
園味別ニ修治ノ酒酢蒸漬等ノ類ニ至テハ隸書俗字
ノ字ヲ究メテ始メテ行草ノ躰ヲ得ルガ如シコノ學ヲナクメ
醫ヲナスハ書學ナクシテ書ヲ為ガ如ク模倣ニ巧ナリト
雖ニ王ノ法ヲ得テニ王ノ意ヲ得ザルニ遂ニ生涯已レガ
書ヲ為スヲ能ハズコシ古今治龍衣ノ方法ヲ用ヒテ千萬人ヲ
療シ得ルトモ方意ヲ究メ得サルトキハタトハ桂麻ヲ桂麻ノ

證ニ施メ効ヲ得ルモ、ツイニ桂麻ノ桂麻タル微意ヲ得ズ、
猶人ノ寶ヲ貸メ利ヲ得ルモ、生涯自己ノ物ヲ為ザルト
同理ナリ、此理ヲ早クモ明ラメテ研究スルトキハ、學術
兼有ノ醫者ノ云フベキナリ、

世五

不老延年ト云フ、後世疾醫ノ上カラハ迂誕ノ事ノヤウニ
思ハレド、サニアラズ、夫レ醫者ノ本トスル所ハ長生不死ニ在リ、上品
藥多クハ皆不老延年ヲイリ、ソノ理ハ上品藥多クハ皆益氣
通脈ノモノナリ、コト益氣通脈ノ物ヲ多服スルトキハ、耳目聰明
九竅暢通シテ、又服スルハ輕身不老ニ至ルト云フ、コレハ功
能書キト云フモノニテ、カク書カ子ハ益氣通脈ノ効ノ著シキ

アラハヌナリ、孟子ノ盡信書不如無書トイハレシモ、此事ニテ、古
書ヲ讀ニハ此理肝要ナリ、玉泉ノ條ノ如キ人臨死服五斤死
三年色不変トアレド、トテモ死際ニ五斤ノ石藥ヲ服シ得ルハ
能ハシ、服シ得テ死後ニ三年色ヲ變ゼトテ益モ無キナリ、
コレサニアラズ、玉泉ノ上藥五藏百骸ヲ通利シ、柔筋強骨安
魂長肌ノ妙功アルヲ、顯サガ為メ、取後ニ此數句ヲ費
メ、其藥ノ神アルヲ示セタリ、コノ類ニナ古醫學者流
ノ活看スベキ所ナリ、

世六

古本草ノ次第モ、先ツ玉石ヲ出し、次ニ草木次ニ虫蟲獸次ニ瓜
菓菜次ニ米穀ト出セシハ、不老延年ヲ尚ヘナリ、凡ソ藥ト

イフモノハ人ノ常食ノ物ヨリ最遠キモノヲ貴フ、ユヘコレヲ逆
シニスルトキハ人ノ腸胃ニナレタル所ノ米穀菓菜蟲獸草木
ヨリ遂ニ玉石ニ至ルナリ、コノ理ヲ辨ゼズ本草ヲ瀆トキハ終
身今日ニ活用スル能ハズ、譬ハ上品ノ無毒淡平、中品ノ
小毒温涼、下品ノ大毒寒熱、各其性情ヲ察知シ斟酌
スルコレヲ活用トイフナリ、附子ノ辛温破癥堅積聚、大黃ノ
苦寒ニ破癥堅積聚白トイリ、コレ一同癥積ノ證ナカラ、
其虚寒ニ因ルモノハ附子ヲ用ヒ、其熱實ニ因ルモノハ大黃ヲ用ル
ノ意ヲホスナリ、學者早ク此理ヲ用悟セ、後世汗牛ノ書亦
皆無用ノ長物タラシカ。

世七

上世ノ人皆長壽ヲ保タレシ、和漢枚舉ニ違アラス、多クハ虚
誕ノヤウニ覺タル人モアレド、サニアルニシ、何トシハ古世質朴ニ人皆
思慮少ク無為ニシテ化スルニ、自カラ天年ヲ終ル、後世ニシテハ
人間事務繁冗、官職制度ヨリ衣服飲食ノ類ニ至ルニテ
萬物煩瑣ニナリキ、人ニナ心身ヲ勞役スルニ因テ、ソノ身心ヲ
慰悦スルヲ以テ快樂トナス、其快樂ノ中ニ在テ遂ニ夭折スル
コトハナリ又、譬言ハ龜鶴ノ壽ト云フハ皆人ノ知ル所ナカラ、
獨龜雀ノミナラス、凡ソ鳥獸ノ山中ニアルモノ、自斃死病死
アルヲ見ズコレ天道自然ノ境界ニ在テ、逍遙自適ヲ得レバ
ナリ、如龍鳥樊獸ニ至テハ、飛走ノ自由ヲ得シ、能ハザル上ニ

飲食ノ滋養山中ヨリ增多ナリ故ニ天季ヲ終ルヲ能ハズ
シテ往々斃死ニツク人モコレニ同ジク官祿或ハ市利ニ汲ニスル
籠鳥樊獸ニ異ナラス身心共勞役シテ翰飛疾走ノ自
在ヲ得ザルニナラス且膏粱ト妻妾トニテ身心ヲ慰悦スル
ニコレヲ慰悦遂ニ天横ノ媒トハルナリ古人ノ飲食男女ハ
人之大欲存ストイルモコレノ教誡ナリヨク此理ヲ察シテ
已レクノ身ノ程ヲ知り其分ニ安レジテ生ヲ養フトキハたと
百年ノ壽ハ保タズトモ八九十ノ域ニ至ルベシ畢竟天ノ自然
ニ随テ人欲ヲ斟酌スルニ在ナリコレ易ノ變ヲ常トスルノ
理ニテ六十四卦皆コレ過不及ナリソノ過不及が即天道ナリ

共

其天道ニ法ルトキハ天氣ト純一ニシテ毫モ罅隙ナシ故ニ常ニ
嬰兒ノ如ク氣満テ邪モ入ルヲ能ズコレ養生ノ第一ナリ
醫名モノ常ニ此理ヲ擴メテ猶工夫アルベシ
蘭軒先生嘗テ上古天真論ノ恬惔虚無真氣從之精神
内守病安從來ノ二句ヲ一聯トナシ正元以テ炎帝像ノ
左右ニ掛ク深意アルヲシサテ此二句ハ醫家ノ緊要事ナリ
スコシテモ真氣ノ空虚アルトキハ邪氣コレニ乘レテ入ル虚
邪賊風トイヒ百病生於虚トイフモ真氣充滿スルハ邪入
リ易カラザラユナリ俗間ニテ臘月三旬裸體ニテ神佛ニ
渴スルモノワイニ寒邪ニ籠衣ハレタルヲ聞カズコレ精神專一ナバ

ナリ、苟モ精神專一ナレバ、愚夫スラ此ノ如シ、ミレテ大丈夫精
神專一ノ工夫イカゾ為レテ成ラザルヤ有ランヤ、余讀上古
天真論ノ詩アリ、恬淡虚无真氣游精神内守沈疴
瘵、豁然會得來茲理、不借涓管銷百憂、

菟

龍珠子、驚風ノ神藥ナド、真志者至テ希ナリ、小ナスビト
云フモノシ、世ニコナスビト云フモノハ甚小実ニメイヌホウズキシ、龍珠
ニアラズコシ龍葵ナリ、真ノ龍珠ハ子葉全ク茄子ニ類
シテ但小ナリ、美作國深山近溪澤所ニ有之、作州森
伯耆守ノ臣真屋新助唯授一人ノ驚風藥中コレヲ
用ユ、方コニ
載セズ此事中虚君筆記中ニ見エタリ、

ニ立之案スルニ作州ノコナスビ、搜索シテ得ニク欲ス、蓋龍珠
龍葵元ト一類ニ種ナリ、龍珠ハ龍葵ヨリ稀ナリ、莖
葉共ニ龍葵ヨリ長大シテ、其实亦大ニメ、熟スバ赤
色ナリ、龍葵莖葉小シテ实熟スバ黒シ、其功能ニ必相似タ
ルベシ、龍珠コナスビ、龍葵イヌホウズキナリ、

世

舶来ノ青磁、最陳久ノ者研末、白湯ニテ下シ、子痼又不
眠ヲ療スル、家傳書中ニアリ、コレ此第白石英赤白石脂ト同
ジク鎮墜ノ最ナル者ナルベシ、今時ハ石脂石英ナド上品極メ
テ少ナリ、古青磁ノ末必勝ルベシ、余未タ試ミズト雖、記メ
後考ニ備フ、又地入陰戸不出ニモ青磁ノ末一服ニ即出

ルヨシコレモ不自己ノ心氣鎮墜シテ自満スルトキハ蛇中ニ在ル
能ハズノ出ルノ理ナリ

四

錢癘ハミカレ林禁忌アリ、知ルモノ稀ナリ、ホウノ蒸鯉カタカ

禁北松右三四ハエチ 一切油氣 芥セ鳥類 コレヲ犯ス

モノハ治シテ効ナシ

三

昔渡リ南京ノ磁器極末シ、虚人ニハ人參末三分一ヲ加ヘ
和シ用ユ、或犀角羚羊角ノ末三分一ヲ加ヘ用ユ、共ニ冷水ニテ
送下ス、コレ解熱ノ取ルモノナリ、紀藩ノ祕傳ニ出ス、以上ニ

書中ニ津久井郡内邊養蚕ノ地、蚕繭ヲ成スノ前、雜木小枝

三

ヲ束子、帚子様ニシテ、蚕ヲシテコレニ上ラシムコレヲハギト云フ、
コレニ目テ考ルニ、胡枝花ヲハギトイフモ、多枝細條コレニ過ル
モノナシ、故ニ名ケンナラシカ

萬葉集ニ真野之榛ハギ原小野之真榛ハギナドイハ、皆灌木

野ニ満ルノ義ナレバ、同書ニ又秋茅子アキハギ又秋茅トモアリ、

茅ハ茅ノ相州ニ榛原ト云フ地名アリ、
誤ナルベシ

ニ灌木榛生スルノ地ニ名ケンナルベシ、

四

子云子高名已ニ洛ノ中外ニ普シ、折節 皇后難生ノ

御惱アリ、諸醫治スルヲ能ハズ、遂ニ云子ヲ治セル、云子一診

ノ上、手術ヲ下ス、ト云フ、奏者醫案ヲ奉ルベキヨシライフニ

玄子元来無字ニテ一字ヲ書スルヲ能フ曰テ學術自ら
別トシ理ヲ辨シ且子宮ノ口周シ凡四寸五分ソノウキハ手指
ヲ入レテ探ルヲ得ルコシヲ手術ト云フト説キ且試ニ先圍ミ守
五分ノ竹ヲ寸許ニ切り出サルベトテソノ寸法ノ竹ヲモタセオ
キサテ席上ニ出ル菓子盆ノ饅頭ヲ右ノ竹ノ輪ノ中ヨリ指
ヲ入レ全ク取上ケタリカル妙子アレバ手術ト云フヲ必アルベトテ
遂ニ治ラ命セラル玄子治シ得テ安ク分娩アラセラルコレヨリ
其名海内ニ振ヒタリ元来玄子ノ手指至テ細長且自在ニ
ハタラキ指頭ニカアルヲ絶妙ナリ子啓子ハカル指力ナカリセバ
遂ニ鈎其外ノ器ヲ作り出シタリ己手術ニ至リテハ父ニ及バ

ザル所以ナリト中尾ノ野崎榮碩語レリ

四五

津久井縣道志ノ獻上鮎ヲ土人ハナガリト云フコレ曲鼻ノ
義ニアラズ此川ノ鮎ハ肥大ニ頭至小サク形鯛ニ類ス故ニハナ
カガリト云フナリ其味亦餘所ノモノニ優ルヲ遠シ

四六

近江琵琶湖水中所産ノ鮎三種アリ其真ヲナト呼フ者ハ
至テ希ナリ味極メテ美ナリ其形頭小サク尖リテ人ナラハ
大椎ト覺シキ所ノ骨尖リテ高ク起レリ又一種ガザウ
関東ニテ丸ブナト云フコレナリ形丸クシテ腹赤ク光ル又一種
ヒワラ関東ノヒラブナナリ又ミゴトモイフ扁大ニシテ頭小シ
此ニ種ハ多シ己湖上ノ人ノヨク知ル所ナリ

四

庖人某ノ話ニ凡魚ノ味ノ美惡ヲ知ルハ尾ニ至ルテ肉肥タル
モノハ味美尾末ニ至テ急ニヤセタルモノハ味劣レリ己弟
一ノ目利ナリト余海濱ニ遊歴スルノ日日撃手スルニ肥ハ雌ニメ
瘦ハ雄ナリ凡諸魚皆一自ニ知ルベシ

四

凡ノ膽ハ諸獸トモニ性味功用略相似タルモノナリ只其ウチ
熊膽ヲ以テ家上品トスルノニ余日向村ニ僑居ノ日子安村
ノ人一熊ヲ銃シ得タリ誤テ腹ニ中リ膽ヲ打チ碎ク
但膽ノ用ズベキ無キノミナラズ全身膚肉悉ク苦味ヲ帶
テ食フニ堪ヘズ己ニテモ熊ノ膽他膽ニ優レルヲ知ベシ

四

此目魚膽ニ甚效アリ屢試ルニ魚毒ニ殊ニ大奇功ヲ覺
シテ江ノ邊ノ送ルニ此膽甚多シ余毎ニ
己ヲ乞得テ試用ス今ハ其人没メ得ニ由ナシ琵琶魚膽モ試用シタレド
氣味モ淡ク形ニ合セテハ膽モ小サシ

五

丹波ノ康頼ノ曰ク凡ノ醫ノ妙儀ハ朝オ夕オニモロクノ
生類ノナヤミヲ下筋ニスクハント天地ニ干カヒテヒタスラニ私
ノ思ヒナケレバイキトセイケル物ノナヤミヲワキマヘストイフ事
ナシヲノレガ為メニシテ此事ヲナセバ利ノミニシテ物ナシト
和論語ニ出タリ

五

夜食ハ忌ムベキモノナリソレモ徹夜不眠ノ節ハ苦シカラズ
若夜食セハ其食ノ消化スルノ間ハ眠ルベカラズ讀誦或ハ

工大磯下町ノ山屋金右衛門ハ漁師ヨリ魚ヲ買トリ江ノ新場ノ送ルヲ
以テ産トス此家冬ノ春ノ間ハ一日ニ百餘頭ヲ鰓下ヨリ膽腸ヲ拔出
シテ江ノ邊ノ送ルニ此膽甚多シ余毎ニ己ヲ乞得テ試用ス今ハ其人没メ得ニ由ナシ

イノチ

淫舞ナド、ミナ消食ノ一助トスベシ、夜飲モコレニ同シ、寓意草ニ、從來服峻補之藥者、深夜ニ欲得食人皆不知其故、反以能食為慶、曾不思愛惜脾氣、令其晝運夜息、乃可有常、ト云セリ、コレニ脾虛欲食ノ一端ナリ、臨證ノ際、熟察セザルベケンヤ、

五二

疫邪ノ最初ハ多クハ、漢邨臭穢ノ地、又ハ驛末ノ乞客店、或ハ邨内ノ丁房、或ハ都下枝街ノ小房ナドヨリ起ルソレヨリ、往々大厦廣堂ニ及ス、此事既ニ三因方ニ見ヘリ、曰ク、疫之所興、或溝渠不泄、瀦其穢惡、薰蒸而成者、或地多死氣、鬱蒸而成者、ト賓ニ然リ、

五三

癩癩元上病、大人ニ癩トイヒ、小兒ニ痲トイフ、古今ノ通稱ナガラ、其義明説ナシ、竊ニ謂フニ、癩ハ癩トイフノ義、痲ハ痲トイフノ字ニテ、戴目也ヲ正義トスベシ、コレ大人ハ地ニ仆ルヲ以テ明カニ其證ヲ知ルベケド、嬰兒懷抱ノ時ハ仆ルヲ以テ知ルベカラス、コレニ只戴眼スルヲ以テ病發ヲ知ル、コレ大人ニ癩トイヒ、小兒ニ痲トイフ所以ナリ、此説新奇ニ似タレド、サニアラズ、古書ヲ熟考シテ、余カ説ノ誣サレヲ知ベシ、癩痲考、別ニ成書アリ、

五四

驚癩ノ字、本草經病源及千金ニ見エタリ、後世ハ唯驚風トイヒ、サテ此驚ノ字、モト馬ノヲドロクト云フ字ニテ、驚駭ト連稱ス、竊ニ謂フニ、胎生ノ物、人獸同類ナリ、本草

白字鬚髮獸類ノ中ナリ、尔後黑字新修ニナコレニ從
テ人獸部ヲ同フスソノウチ分ケテ人馬甚相類セルモノニテ
往ニ病ヲ同フシ亦藥ヲ同フス古方ニ人馬同用ノ方多シ
後世人馬平安散アリ、亦此義ナリ、サテ又馬ハ人ニ服シ
人ハ馬ヲ馭スルヲ以テノ故ニ古聖ノ制礼中ニモ御ヲ立オカ
レタリ、其疾病ニ至テモ肝火上亢スル証、人馬同シキモノ
ヲ驚癇トイヒ、癩癇トイヒ、瘵癇トイヒ、搗搗トモイフナリ、
瘵癇字辨別ニ成書アリ、今贅セズ、

五

凡ソ獸類ノ字ヨリ轉メ人事ニ用タル其例少カラズ皮肉
血ノ字、ニ十獸皮獸肉獸血ノ字ナリ、轉メ人ノ皮肉血ニ用ル

羊ハ柔順ノ物ニ、善美祥ノ字ニ從フ、羴群ニ字
ハ羊ノヨク群集シ、羴生スルヨリシテ人ニ轉用ス、又馬ヨリ人
ニ轉用スル字ハ驕驚駭騷ノ類ナリ、其他猶豫能獨
狂犯獲戾類獻家物ノ字等、ニ十同例ナリ、又尔足
ノ馬一自白、睨トイフハ、睨戴目ノ字ヨリ轉注メ人ヨリ馬
ニ用ヒタルナリ、下文ニ自白ハ、
トアルト同義ナル也後世別ニ驪ニ作ル俗字、
サテ治療ニ至テモ、沈疴固疾、草木根皮ノ及ハザルモノ、胎
生ノ類ヲ用ヒザルヲ得ズ、己血液ノモヲ以テ血液ヲ救フノ
理ナリ、牛黃熊膽犀角獺肝ノ類ハ人ノ用ヒ来ル所ナ
ドモ、尚此理ヲ擴充セバ、意外ノ神効ヲ得ル手段モアルベシ馬

尿ノ鼈癥ヲ治スルハ話ノミニテ知ラ子ト馬血ヲ飲テ梅毒
固疾ノ瘡タルハ余四五人ヲ目撃セリ己血分沈固ノ
癥敗結毒動カザルモノヲ能ク動カス所以ナリ丹羽長秀ノ
鼈癥ニ牛黄清心丸ノ汁ヲソイデ死シタリトイフモ全ク
牛黄ノ功ナルベシ

津久井ニテ婦人一切腰部ノ病經水不調崩漏淋疾小腹
腰痛子宮痛ノ類スベテコレヲシモゴト云フシモヲ見ル見
ガレノ因ヨリシテ腰ヲ病ムスルノ義カ萬安方婦人血風勞
氣ヲシモゴト訓セリコノ名ノ残りアルナルベシ又一切痔疾
ノ類ヲヒエトイヒ疫ヲワヅラヒ又フウベウ霍乱ヲハクシ鶴

膝風ヲヒサヤラウ痛風ヲカザビ痘痕ヲヤカハ腸腸ヲ
シホツト陰囊ヲサガリ陰門ヲベバ陰門陰茎ニ瘡
ヲ生ゼシヲスソガコシタ新婦ヲア子サシ老テモ母アルウチハカクイフナリ小兒
ヲ子、隱元サゲヲ十六又カギ十六癩蝦蟇ヲゴトウハ
地丁ヲスミラダサ替蝨豆ヲトウメノ螢ノ一種長サ七分許
ニシテ腹光輝アル所ノ末赤色トシヤマブキト云フ又矢ノ
アツキヲイタイト云フハ千金方ニ痛ノ字ヲ用ヒタル古語
ナラシ欬嗽ヲシヤフルト云フハシゲクノ轉訛ナルベシ尚此類
甚多シ枚舉ニ遑アラズ

凡ソ子ハ草木ノ精氣コニ取ルリテ時々バ芽ヲ生スルノ

勢カアルモノ故ニ益精補氣ノ功アリ、决明子地膚子、**子芫蔚子ノ類**ニ明目ノ効アルモ此理ナリ、


五
凡ソ花紅紫ノモノハ清热ノ功アリテ血分ニ走ル、**紅花紫花地丁ノ類**コレナリ、**黃白ノモノハ**散鬱ノ能アリテ氣分ニ走ル、**菊花忍冬花ノ類**コレナリ、**紅紫ノ花**或ハ白花ニ變ズ又**紅紫花ノモノ**必一種ニ白花ノモノアリ、**白菊久ヲ經レバ**瓣梢必紅ヲ帯フ、**六一澄ナリ、黃色ノ花**ニ至テハカハリナクイワモ純色ナリ、**己自然ノ理**トレ未タ深ク及ハズ、**茵ノ形ヲ考ルニ松藁香茵ノ類**ハニテ其樹ノ精ヨリシテ出モナリ、故ニ其形頭圓凸ニシテ乾燥シ、茎中実スル

陽ニ属シ氣ニ歸スルモノナリ、**青頭茵木耳ノ類**頭凹ニシテ滋潤シ、茎中空ナルモノハ皆地ノ濕樹ノ液ヨリ成ルモノニテ、陰ニ属シ血ニ歸スルモノナリ、**因テ致ルニ陰茎ノ形**茵ニ類スルモ、**共ニ精氣ヨリ出ル所ノモノ**故ナリ、**草木精氣**天地ノ化ヲ得テ純粹ノ氣ヲアツテ成ルモノ、**茵コレナリ、人ノ陽氣**純粹ノ精聚マテ成ルモノ、**茎コレナリ、コレ其形**自ラ似ガレテ得ザル理ナリ、**其腐草穢土ニ生テ所ノ**茵モ其形亦相類ス、**木耳ノ類**ニ至テハ其形ニ平頭凹伏ス、**コレ濕液ニ本ツクモノ**ニテ、**陰茵ナリ、コレ六女陰ノ**皴皮重複ノ形ニ似タリ、**未タ究メズト雖、木耳ヲ生ズ**


六

ルノ樹上必又菌ヲ生スルハナカルベシ又案ズルニ木身樹
上ニ在テ乾枯ストイハレバ雨濕ヲ得ルトキハ忽寛暢滋
潤ス又日ニアタルトキハ乾枯ス半年許モ此ノ如シ木菌ニ
至テハ日ニ生長シ長極シテ即乾枯ス木身ノ長又ニハ
及バスコ亦陽ニ表ハ易ク陰ニ久ク保ツノ理ナリ
余性菌ヲ癖嗜ス何ノ木ノ菌ニテモ其無毒ノ木ヨリ生
スルモノハ皆コレヲ採リ食フ伐リ株ノ古根ヨリ生スルモノハ
ソノ莖ニ一節アリテ縦ニ莖ヲ裂クニ蓋ニ至ニ直理ニ
分裂スルモノ皆食フ可キナリコレヲ裂クニ横ニ折レ
及ビ白汁出ルモノ及脆柔破レ易キモノ皆食フベカラズ必

六

毒アリ又塩水ニ漬オキ深キテ破壊セザルモノ皆食
フベシ毒アルノ菌及濕土ノ化菌ハ皆煮深ヲ短シテ破壊
シテ飴ノ如シコレ余カ目驗スル所ナリ
芋ハ半夏ノ種類ナリハ余兼テ癖説アリシガコノ頃津
久井縣内ノエテイモ一名シマイモト云フモノヲ見ルニ莖長
ク葉大ニシテ其色莖葉共ニ深緑色ニテ莖莖色ヲ
帯フ葉形自ラサトイモト異ナリサトイモハ葉形
如此シテ及張スエテイモハ  如此シテ平用ス且根魁
正圓大ナルモハ百匁ニ近シ小ナルモノモ六五匁ニ下ラズ其
四圍細長ノ子孫多クツクシ雨濕多ク年ハ根下ヨリ

三

別ニ一莖ヲ抽キ、莖上ニ花ヲ著ク、形半夏天南星ノ類ノ如シ、形状  此ノ如シ、其色淡黃褐、色、但悉ク花アルニハアラス、豊本ノモノ時ニ花アルノニ、ノ年、春夏霖雨甚、コレニテイヨク芋魁半夏南星菟藟シク相模川瀬淵皆カニ此時見 皆一類ナル、明ラカナリ、故ニ皆濕痰ヲ温散スルノ効アリ、時還讀我書下卷ノ才四十一條ニ標記セル文ト併致 津久井縣内スベテ脚氣病アルナシ、流飲癖實アルナシ、コレ蓋芋魁ヲ朝夕ノ常食トスルノ効ナルカ、但疝ト蛇ト鶴脰風トノミ多シ、

芋魁南星ノ類、極メテ湿地ヲ好ム、故ニ其功逐水

畜

驅痰ナリ、コレヲ攷ルニ其質湿地ヲ好ム、能ク水中ニ入り汚濁ヲ驅除スルノ効アルナリ、水萍ノ疥ヲ治シ、澤瀉ノ水ヲ利スト日理ナリ、

凡ソ水禽ハ油膩ヲ滋陰ノ効アリ、山禽ハ香燥ニ亢陽ノ弊アリ、コレ余カ自驗スル所ナリ、猪鹿モ亦然リ、猪ハ牛ニ類シテ滋陰シ、鹿ハ馬ニ類シテ亢陽ス、皆少喫スベクシテ多食スベカラサルモノナリ、猪ヲ多食ス、便澹シ、鹿ヲ多食スレハ便秘スルニテモ、亦其性質ヲ知ルベシ、

五

胡蘿蔔ハ茴香ノ種類ナルベシ、花葉子根且香氣

ニテ甚似タリ、本草苗香ニ菜部ニアリ、共ニ下氣
補中ノ功アリ、味ニ共ニ甘辛無毒ナリ、和俗ニシ
シノ名アルモ、亦平淡ニ毒、菜中ノ主タルヨリ名
ヅケレナラシカ、

牛房ハ大小薊ノ類ナリ、箱根山中ニテハ常ニ大薊根
ヲ採リ煮食ス、味甚牛房ニ髣髴タリト、

惡實味辛平根逐水字馬根主癰疽唐本根可作

茹食之陳藏牛房味甘無毒通十二經脈、洗五藏惡

氣、可常作菜食之、令人身輕、

大小薊根味甘溫養精保血、大薊令人肥健唐本大薊根甚

○治腸癰腹
藏疾血
暈撲損

療血、亦有毒、注陶大薊根療癰腫唐本大薊可

生研酒并小便任服、惡瘡疥癬、鹽研嘗傳、

又名刺薊、山牛房、能補養下氣、日華

以上ノ文ニヨレバ、二物性味功用ニ相類セリ、凡ソ中通

髣髴虚ノモノ、通經消壅ノ功アルヲ以テ知ルベシ、余常

ニ牛房ヲ嗜ムコトヲ食スバ、降氣シテ、轉矢氣多ク出、

便閉ノ患ナシ、

蒲公英ハ、苦艾ノ一類ナリ、花葉根形茎ヲ折ルニ

白汁出ル、其ニテ相似タリ、コレニ類セル白汁出ルノ小草

甚多シ、皆多ク苦艾ノ類ナリ、

六

(蒲公草)味甘平無毒主婦人乳癰腫唐治惡刺及狐

尿刺摘取根莖白汁塗之千金方

(苦艾)微寒主面目通身漆瘡唐五月五日採暴

乾燒作灰以療金瘡甚驗陶苦無毒藥性論冷

治丹毒日華子

以上二功相類スルノ證ナリ

玉屈菜ヲ折ルニ黃汁出フ博落廻モ然リコト亦

二草同種類ナリ共ニ毒アリコレニヨルニ黃汁出ルノ

草及菌皆毒アリ

野菊ノ種葉甚菊ニ似テ小サク面緑背淡白花

充

白ニメ單瓣黃蕊ニ香氣甚シ少ク鹿射ノ氣アリ甲相

二州山中尤多シ岩石間ニ生ス冬ニ至ルニテ花アリ

元祿間越人ノ致句ニ山路ノ菊野菊トモ亦チ連

ヒケリトイハルニコレヲ指スナラシ長生療養方ニ我朝ノ

甲州ノ鶴郡ニ菊多生其土民彼ノ土毛ヲ食ニ依テ

天壽久視也然者汲南陽之谷水嘗甲州之地脈之

輩皆以壽長身健何況他湯為散服之其驗

不空歟トアリコレニ依レハ郡内縣内ヲ白菊多キナ

上古ヨリ如此ナルヲ知ルベシ

香月牛山曰按日本風俗自神代以來禁肉食為穢

七十

物而不食、故牛羊狗豕之類、不供食料、但充藥
物耳、近世大明人、歸化日本、住長崎、朝鮮人、歸
日本、住對馬、親見為肉食者、故西州人、效之、嗜
肉食者、往有之、稟賦健強、腸胃厚實、人為
肉食而可也、稟賦柔弱、腸胃脆薄、人非而宜、
夫牛馬者、稼穡運行之次、具人間有益物、故律
林示殺之、玉制曰、諸侯無故不殺牛、然庶人如
何殺之乎、藥用不得止、則殺之少可乎、西州深
山繫牛、誤墮峻岨、崖巖墻而死者、間有之、是非病
牛、其性同、直殺者、得之則欣幸也、蓋日本人、從其

風習、不食而可乎、トヲ論家妙、サスガニ大醫者ノ口
氣ナリ、コレハ今ヨリ百二十餘年ノ昔ノトナレド、今時
ニ至リテハ、江都八百八街三冬獸店ヲ開ク、文化ノ
比マデハ、舟人、輿丁、工匠、賤人ノ食ナリガ、弘化ノ
今日ニ至リテハ、士大夫ヨリ、女人ニ至ルテ、肉味ヲ知ラザルハ
ナシ、其弊ヤ、疥癬ヲ患ルモノ多シ、藥浴並ニ玉水ノ
繁昌日スル所以ナリ、

七二
論語ニ止子路宿、殺雞為黍而食之、トアルヲ見、六平
人ノ珍膳ニ、雞黍ナドニテ、足ルヲ志スベシ、今モ、蘭人ナド
雞ヲ日食スルナリ、大宰三牲ノ養ニ至テハ、天子ノ事

ニテ、周礼膳夫ヲ見テモ其式度アルヲ知ルベシ、
郷黨ニ肉雖多不使勝食氣トバトカク多食スルハ
非テク勿論ナリ、今人ノ如ク酒ヲ豪飲シテ肉ヲ飽
食スルキハ何ノ藥食カランヤ、併ナカラ一緡錢ヲ
推乃テ都下ニ走レバ野猪山鹿ハ固ヨリ、熊狐狸
貉豺鬼獺猿ニ至ルニテ、所好ノ肉羹一目折ノ飪
ヲス、ムコレ亦太平ノ大盛事、西志モカハ繁華ハ
恐ラク有シキナリ、然レハ若肉食欲スル人ハ先老
醫ニ謀リテ後吾性ニ益アルモノハ何ニテモ將食ス
ベシ、コレ真ノ藥餌ナリ、

七三

野猪肉ヲ飽喫シ生薑ヲ合食シテ、後癩瘡ヲ
甚ヌルモノ、四五人ヲ日撃セシト語ル者アリ、其ウチ一人ハ
真ノ癩疾トセリ、其他ハ皆治メ愈タリト云フ、蓋シ
薑猪合食ノ所為ニ非ラズ、飽食メ食毒發瘡
セシナラソノ一人ハ自ラ中ニ毒アリテ食毒媒ヲナセシナラ
カ、猪薑合食禁ノイ何ノ書ニモ見アタラズ、録レテ
後日ノ参考ニ備フ、

七三

中風ノ傳、傷寒論ト金匱トハ同名異病ナリハ皆人ノ
知ル所ナリ、但素問ノ風論ニコレハ、一非ハ單ニ風ト依スベ
キモノナリ、ソレヲ中風トイフモノハ、所云古昔ノ俗呼ニテ、喝ヲ

中暈ト云フノ類ナリ、サレド神農本草ニ中風トイルニ、
既仲景ノ如ク外感ト痲病ト兩般ナレバ、今ノ金匱
ノ中風ノ條モ、古來ノ俗名ニテ、疑フベキモノアラズ、

本草白字、麻黄芎藭石膏雲母牡月澤蘭
厚朴葱實烏頭ノ條ニ云ク中風ハ皆傷寒論
ノ中風ナリ、女萎馬先蒿大戟ノ條下ニイフ中
風ハ金匱ノ中風トイシク痲澹ヲ云ナリ、白薇ノ條ニ
暴中風身熱肢滿忽ニ不知人狂惑トイハル卒中風
ヲ指スナリ、

七四

上古ノ時ハイザラズ人民火食アラテヨリ疾病ハ出来

疾病アラテヨリ醫藥ハ出来タルハ必然ナリ、サレド神
農氏ノ五穀ヲ執ルヲ教ヘタミヨフテ醫藥ノ制ア
ル所以ナリ、其理ハ凡ソ草木鳥魚ノ諸物ヲ食メ有毒
無毒及ヒ五味五氣ヲ定メラルヨリシテ、即醫藥ノ
事ハ起ルナリ、コト火食ト醫藥ト同時ニ出ルノ徴
ナリ、ソレヨリ因循シテ年ニ歳ニ詳審ニナリ、漸ク秦
漢ニ至リテ書籍ニ筆セルナリ、此意ヲ以テ古經ヲ
讀トキハ古傳ノ説ト後増ノ文ト自ラ明白ニテ、頻ニ疑
ヲ生スルノ癖弊ハヤムコト、内經本草經ヲ讀ミ必此意
ヲ失フベカラズ、其詳ナルハ余カ著ス所ノ素問穿鑿

本草經攷注ノ中ニ見エタリ、

七五

傷寒傷食ニカギラズ、諸大病ノ上ニテ、故ナク虻ヲ吐シ
及ヒ下ス事アリ、コレ凶兆ナリ、内熱甚メ虫居ヲ失メ
出ルト、藏寒ヘテ膈ニ出ルトノ二件ナリ、心ヲツケテ見ルベシ
勝瀨ノ岡部政右衛門ノ室、年五十餘、午後魚脯ヲ削
ナカラ、左半身不随シ、其ミ、卒倒人事不省ナリ、鼾睡
ヲ癸メ止ミス、藥汁モ三貼ハ入りタレド、後ハ入ラス、其曉天
ニ没ス、一日ヲ隔テノ朝、沐浴セシ時、口鼻ヨリ活虻十餘條
ヲ出ス、コレハ急症ニ生前ニ出ベキノ虻、出後レテ没後ニ出
タルナルベシ、此後如此ノ尚数人ヲ見タリ、

七六

余壯年時ニ陰痿ヲ患ルイアリ、大柴胡湯ヲ用ル
トキ、其効神ノ如シ、尔後少壯ノ陰痿心腹弦急ノ
証、遇フ毎ニ用テ試ルニ極テ驗アリ、コレ肝火ノ上亢ヲ
虚候ニ非サレバナリ、

七七

弘化丁未ノ年、春夏ノ際、縣内痘瘡大ニ流行セリ、
勝瀨一邨ニテ七十餘人同ジク病ム、皆實熱ノ証ニシテ
一人ノ虚証ナシ、輕キ八十神解毒加^大黃、重キハ清涼
攻毒飲ノ類ナリ、病後目ヲ患フルモノヲ見ルニ、多クハ
解毒ノ不足カ、或ハ參附ヲ用ヒタルモノナリ、此證顛上ニ
鉛丹膏巴豆 鉛丹 味 細末 麻油 和勻ヲ塗リ、羚羊角飲或去 黃芪ヲ用テ其

効如神、

六

了未ノ秋至リ、津久井縣處ニ家雞往々冠上ニ瘡
ヲ生シ、甚シキハ毛際距間ニモ生ス、二三日不食ニテ水ノ
ヲ飲ム、死セルモノ甚多シ、雞ノ痘丸ヨシヒアリ、コレ六
雞痘ノ一證ナルベシ、多クハ雄雞ニアリキ、千金方治
人及六畜時氣熱病豌豆瘡方、濃藁黍穰汁
洗之、コレ六畜痘ヲ病ムノ證トスベシ、

桂川醫話

相模川ノ上ヲ一名カワラ川トイフ故ニ
桂川醫話ト名ツケタルナリ

安政七未重陽節後百脱稿源表

遊相後文改
活極云々

安政七年庚申三月廿日収電于温知葉堂上毛般扇草證書林用之

